

## 地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20年 2月 3日
事業所名	グループホーム好日庵
ユニット名	1 ユニット
事業所番号	2374000384
記入者名	職名 管理者 氏名 原田 郁代
連絡先電話番号	0536-35-0022 医) 静巖堂医院

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>表現の仕方は少し足りないが、理念を実践してゆくための具体的な行動の中にそのことを盛り込む</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は、いつも見やすい場所にホーム内3箇所に掲示してある。理念を達成するために具体的にどのように行動するのかを研修やミーティングのときに機会あるごとに話し合っている</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関の見えやすいところに貼ってある。実際の活動の様子などは「好日庵からこんにちわ」の情報紙の中で地域や家族の方にお知らせしている</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣に散歩や買物に出かけたりして、挨拶や話を交わすことで自然に顔見知りになってきている。またホームに遊びに来ていただけるように「夏祭り」や「くり畑の集い」などには案内状を出している。</p>	<p>運営推進会議で、地域の方からホームが建物の3階にあるため、訪問しづらいとの貴重な意見をいただいた。今後立ち寄りやすい雰囲気づくりに向けて検討してゆきたい</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のお祭りや小学校の運動会、学芸会の参加などに参加してそのことがきっかけで小学生が訪問してくれたりお手紙をいただいたりしている。</p>	<p>現在地区費は収めているが、来年度より回覧板や地域における自主防災活動なども一緒に参加できるところは、行なっていけるように申し出ている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		出来れば、グループホームの専門性を活用して地域の中で認知症ケアで困っている方や家族に対しての啓蒙活動や「相談窓口」などのような活動ができればと考える
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	推進会議では、活動報告書（利用者の状況、訪問状況、見学者、ボランティア、研修、地域交流、全般の様子等）をベースに話し合いがもたれる。特に防災に関しては、地域の自主防災で活躍されている方も参加しているため貴重な意見をいただいた	推進会議に、地元で利用者さんが日頃接している商店の方や喫茶店の方理髪店の方などをお誘いしている。良い効果をあげているため今後もいろいろな方をお誘いしたい
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	年3回開かれる家族会の様子や会議の記録などを伝えて日頃の活動を報告し理解していただけるようにしている	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	家族と利用者との人間関係の問題もあり、「おかしかな」と思ってもホームとしてはいえない事例もある。	入所されている方は、ほとんど金銭管理が出来ない認知症の方で、権利擁護については職員で正しく学ぶ機会を持ち、必要時間をかけて家族の方に伝えてゆきたい
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待についての基本姿勢をマニュアルで職員に知らせている。特に認知症の理解が弱いため利用者さんの行動に寄り添うことが出来ないときに虐待が起こりやすいと考えられるので、一人ひとりの職員の状態を把握しておく必要があり努力している	職員の性格もあり気づかないで過ごすことも考えられる。「こんなことって虐待にあたるのでは？」という職員同士で気軽に話し合える機会を作りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>一度介護記録を家族の方に一か月分お送りして、その時にアンケートを御願いたしがあり、家族の気持ちをつかむ良い機会になった。今後も折を見てアンケート調査などを行ないたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>今後重度化する利用者さんも増えることも予想され、利用者さんの状態や介護力に合わせた勤務シフトや体制を話し合いできる基盤ができている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後、職員の移動はなく、なじみの関係作りというより、家族のような雰囲気職員は働いている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングでは、勉強会の時間を設けている。県の研修、グループホーム協会の研修、パリデーショの研修、認知症ケア学会、グループホーム全国大会、院内研修など各職員の経験、状態に合わせて参加できるように勤務調整しながら実施している		研修後報告はしてもらっているが、研修の成果を他の職員にも十分生かされるように今後工夫してゆく必要がある
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			新城市内の他事業所に、職員と利用者さんが一緒に訪問（お茶飲み会）して交流しあう話があり計画中である。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃からまず話を良く聞く。悩みやストレスは話すことでかなり解消できるもので職員同士が話し合える時間を設置することも大事と考える。コミュニケーション不足が必ず問題を生む。勤務体制シフトを作るときには出来るだけ希望をとりいれ、無理のないように作成している		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに法人の年間目標に沿って、グループホームの年間目標を話し合いで決める。それに沿って個人の目標を設定し、目標が達成できるように支援している。その努力が賞与にも反映する仕組みを作っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所の申し込みの際には、必ず施設の見学などをしてもらえるように伝えている。その時本人の気持ちなどを聞くようにしている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所の申し込みの際に家族の状況をよく聞き、相談にのっている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービス事業書を紹介したり介護保険について理解してもらえるように話している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始時期に、家族のかたにも一緒に泊まっていた。一日の生活の様子や利用者さんのことも分かり安心していただいた</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>今まで生きてきた知恵、得意なことは発揮していただけるように、利用者に聞きながら行なうようにしている。また料理のことや昔からある知らない方言など、沢山のことを教えていただき時には笑い、助けられながら一緒にすごしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事である「夏祭り」「クリスマス会」は家族の方と職員、利用者さんとの共同作業なので、ひとつのことを共にやり遂げるといった一体感があり好評で、毎回沢山の方の参加がある。2ヶ月に一回の家族への手紙は、ホーム家族、利用者を結びつけるものとなっている		「家族もまた家族」と思って、ホームの輪を広げようとして今後も取り組んでいきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者さんと家族の方の間には、長い歴史があり一概に入り込めない問題も多くあります。ホームとしては、まず家族に信頼感を持っていただくことが大切で、次に利用者さんと家族の方をつなぐ働きかけとしては、連絡を密にすることを実施しています		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいた方には、お礼と「また来てくださいね」とあいさつして、次に気安い雰囲気を作っている。外出・散歩などは馴染みの場所を選んで出かけたりにしている		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がかかわりあい支えあえるように時には、職員がなかにはいり調整することがあるが、最近はお互いに助け合いしながら生活している姿が見られることも多い		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の理由（退去）により難しい場合もある。		大切なことだと思うので、断ち切らない関係を作ってゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式の「私の姿と気持ちシート」は活用しているが、大変分かりやすく視点がもちやすい	今後ケアプラン更新の時期に、家族の方を交えたケアカンファレンスを開き、より充実したものにしたい
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	センター方式を活用して本人、家族から聞いたこと、職員が気づいたことなどを記入している。	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	記録、ミーティングなどからひとりひとりに合った過ごし方心身状態を把握するように努めている	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ケアプラン更新時、モニタリングの説明のときに家族から要望を聞くようにしている。介護計画の短期目標における具体的な援助の方法では、職員の意見を100パーセント活用するようにしている	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	モニタリングを適切に実施する。例えば骨折などの事故があったときには計画の見直しを速やかに行い、計画を変更作成した。	現在課題であるが、状態が変わったり新たな問題が起きたり介護方法が変化したときなど、その時の状態をカンファレンスで検討して、速やかに計画も追加変更が出来るような仕組みを作る

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアスタッフが記録した介護記録、業務日誌に目を通し参考にして、ケアプランの作成時に活用している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学生や一般ボランティア（大正琴の会、フラダンスの会、カラオケの方など）を受け入れている。		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			自宅に帰りたいと希望されている方がいるが、例えば訪問介護や家族の方の協力体制が組み合わせられれば時として実現可能かと考えるが実行には至っていない
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			連絡推進会議には、包括支援センターの方も参加されているので、今後問題があれば意見がいただける状況にあるので、今後活用したい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には2週間に一回受診しているが、必要に応じ相談にのっていただいている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時に専門医の診断をうけていただいている		今後も認知症の進み具合などを受診できると良い
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内に看護師、准看護師がいるため気軽に相談できる。建物一階の診療所の看護師とも交流がある。緊急時には連携体制もできている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携は出来ている。骨折した入所者さんが手術後他の医療施設から戻るときに、速やかに法人の医療施設への入院となる。その後、医師、理学療法士、看護師との相談の結果、速やかにホームへの帰居となり、その後の支援体制も継続できた		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に説明を行い、家族や本人の気持ちを聞きその記録を残している。		今のところターミナルの方を送った経験はないが、今後に向けて職員とそれにむけての支援体制を研修している
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員研修、マニュアルなどで、今後に向けて準備している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供書に詳しい経過などを書いて送り、不安のないようにしている</p>	
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシー保護について法人の就業規則で規制している。個人情報における同意書を必要に応じ職員、外部の方から取っている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分の考えを押し付けたりせず利用者中心で暮らせるように、本人の状態に合わせた働きかけ、説明のしかたを職員が共有し自己決定できるように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の心身の状態に合わせて生活することを優先し、日課や家事その他の作業などにとらわれないように支援している</p>	<p>グループホームは生活の場であり、介護は絶対業務にならないように、利用者さんの気持ちを尊重し押し付けにならないように、やる気を引っ張り出すような働きかけが出来るように気をつけさせている</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>一人ひとりの好みや、いままでに生活スタイルに合った身だしなみを大切にしている。理美容に関しても地元の理髪店の協力もあり好きな時に出かけられるように支援している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を考えるときには、利用者さんを交えて相談して決める。		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好むお菓子や飴などの嗜好品を個人個人で購入してもらい、人によっては事務所で保管させてもらっている。ティータイムは時々喫茶店風にして本人の好みの飲み物を出している		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	重度の認知症の利用者さんにとって排泄の問題が大きくかかわるため日頃の排泄パターンを把握し、嫌な思いをさせないようにケアをしている。一人ひとりに合った排泄ケアが出来るように、情報を皆で集め心がけている		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はリラックスした雰囲気楽しんでもらえるように、一対一で行なっている。日時は今までに様子を見て話し合いながら変えてきましたが、現在は一日おきに行なっていますが必要時にはいつでも入浴できるようになっていて、支援しています。		時に地元の温泉に出かけたり、時には温泉からお湯を運んで全員がホームで入浴して楽しんだりしています。入浴は皆食事に次ぐ楽しみでもあるから、今後も利用者さんの状態に合わせて工夫してゆきたい
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後はリラックスした大切な時間で、一人ひとり過ごし方も様々です。テレビを見る人手紙を書く人、おしゃべりする人、利用者さんの体調や習慣に合わせて就眠時間、起床時間を決めず自由に休めるようにしています		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりできること出来ないこと、性格などがあるので見極めて支援している。台所仕事、畑仕事、植物の手入れ、裁縫、生け花、歌、散歩、外出、選択、掃除など本人が生き生きと過ごせるように支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブルの元になりやすく一応管理は、職員（事務所）で行なっているが、買物に出かけたときなどは本人の状態に合わせて会計時にお金を支払えるように支援している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日を選んで、30分～一時間くらい散歩を楽しむ。また草取り、畑仕事、買物など本人の意向に沿った支援をしている		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一月に一回職員の全員出勤日の日を作っている。その時に日頃行けないところへの外出や外食、行事などを計画して、家族の方も参加できるように誘っている		外出にはリスクが伴うため事前の準備が大切で、まず安全第一を考える。それにはどうしても必要な人数も確保する必要があり、勤務に全員出勤日を設けた。ボランティアも含め支援体制が出来たことを喜んでいる
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが申し出があったときには電話をかけたり手紙を出したりして支援している		現在気計画していることにバレンタイン・レターを家族の方から出してもらい、それに返事を出すというものです。うまくいったら今後の行事に組み入れたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけるように時間などは設定していない。居室、ホールで好きなところで逢ってもらえるようにして、訪問時お茶などは必ず出してゆっくりしてもらっている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないようにケアしています		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		事故危険予知能力を職員全員で身につける
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>応急手当などの訓練は、行っていない。実際の対処については今後研修の中に取り入れてゆく。実際は医療併設ですぐに応援体制があること、看護師常勤していることで職員が安心していられる</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	問題（転倒や異食、体調など）が予測して考えられる場合には、未然に防止するためにその様子と対策、方針について家族に知らせている		家族への連絡などを記録で残しておくように徹底する
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインのチェックや全身状態の観察を行い、日頃と違う様子が感じられたらすぐに報告するようにしている。		
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬している薬剤情報を事務所にかけ、必要時確認できるようにしている。薬を扱う場合は、常に複数でチェックできるように確認し確認印を記録している。		複数の確認体制をとっているにもかかわらず、服薬ミスが3件あった。原因は最後に渡す職員のうっかりミスである。大きな事故にはつながらなかったが、当然防げる事故であるため今後ミスのないように強化してゆきたい
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分、食物繊維の摂取ヨーグルトなどの飲料をうながすしえんをしている。また毎日歩行練習などして運動不足にならないようにしている		個人的に咀嚼能力の弱い人には、食物繊維（パインファイバー）を購入して毎日摂取している
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の手入れや歯磨きなどできない人の支援を、その人の段階に合わせて毎日のケアプランにとり入れて支援している		認知症の重度な方の口腔ケアがタイミングが合わないとなかなか出来ないことがある。口をゆすいだりお茶を飲んでもらったりして対応している。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べれる人、糖尿病の方、ペースト状にする人、ご飯の盛り方を工夫すれば人食べれる人などに個別の対応が出来ている		また認知症の症状がすすみ一日のリズムが変化しているため、食事、水分摂取、排泄、睡眠、活動などをトータルで記録して把握する必要な方がいて現在個別に対応している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいを外出から帰った後、食事の準備前、食事の前などには必ず行なっている。また日頃の栄養管理や身体能力の低下防止、睡眠の状態などにも気をつけている		開設して2年間一度もノロウイルスやインフルエンザに感染している方がいない。今後もひきつづき気をつけてゆきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎回使用時フキンを交換し、フキンとまな板の除菌(漂白)は夜勤者が行なっている。調理器具は清潔に保つ。一度作った料理は一回で使い切るようにして残さない。傷みやすい食材の取扱いに注意する。冷蔵庫の管理など特に食中毒警報が発生している時には注意している		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外観は洋風のレンガ造りの鉄筋コンクリートの建物であるため、ホームは和の住宅の雰囲気が出るように入り口に屋根を作り、扉も格子戸にして温かく迎えられるように工夫している。		玄関に座って靴を履けるように椅子を置きたい。。来客者の下駄箱を設置したい。建物の一階からエレベーターに乗るまでの空間の雰囲気づくりに気をつけたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれ窓からの外の眺めがよく、四季折々の季節が感じられる。居間には季節の花や散歩のとき摘み取った花を利用者が楽しみながら飾ったりしている。清潔保持を心がけている。設置してあるテレビは音量などに注意して食事のときは消したりして、テレビをかけっぱなしにしないで見る時間などは調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き利用者が話をしたりくつろげる空間になっている。遅くに朝食をとる利用者さん用に一人でゆっくり食べられるように、テーブルを用意してある。		スペースはあっても使われていない空間もあるため、利用者の意向も聞きながら、今後居室以外にも一人や数人で過ごせる空間も工夫して作ってゆきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みのものを居室に置き、自分なりの部屋作り をされている。利用者の趣味や個性も出て安心し た部屋作りがされている		家族の方に入所前と同じような部屋にしてあげたい と話したが、実際には馴染みの家具を持ち込む 人は少ないので、また機会があったら働きかけたい
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度、湿度、換気の調節には、配慮している。食 事の準備により多少においがホールに残ることも あるがすぐに換気を行う。いわゆる嫌なにおいは 普段は感じられない。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーになっている。堀コ タツのある部屋には、踏み台が設置されたため、 入室しやすくなった。また廊下が広く長いので歩 行訓練のときに役立っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室内の家具の配置などはあまり変更しなよ うにして、利用者が慣れた環境を保つようにしてい る。トイレの扉は色を変えて他と分かりやすいよ うにしてある。一人ひとりの状況をよく見極めて 安心して過ごせる環境づくりにつとめている。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	自由に入出入りできるベランダでは、散歩してい る方、ベンチに座り日光浴をされる方、プランター の手入れをされる方など思い思いに活動されてい ます。時には芝生の上に座り皆でおしゃべりなど して大笑いして過ごすときもあります。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して2年が過ぎました。一年目は、運営理念に基いて、利用者さんのケアやその質を上げること、職員のコミュニケーションを充分とること、安全であることを目標に取り組んできました。2年目に変化が見られたことは、家族との交流が温かいものになってきたこと、「家族もまた家族」と考え特に家族会の運営方法を家族の方に参加型に変えたこと、利用者さんの様子を家族の方への手紙として定期的に送るようにした事、介護記録などの開示により日頃の利用者さんと職員のかかわりを見ていただいたこと、それに対するアンケートをとったことなどが考えられます。また地域との関わりも積極的に意識して行なってきました。地区費を納め地域に存在していることを示し、積極的に地域にでかけてゆきました。バス停の清掃活動を初めささやかですが利用者さんの社会参加の意識に役立っています。声をかけてくださる方も増え、温かい目で見られるようになってます。これには運営推進会議の成果も関係していると思います。運営理念も職員の中に浸透してきました。それらをまとめて「私らしく、安気に、おもしろく、一日一日を大切に」と書いてホールに貼ったら利用者の方に「その通りだのん！」と書いて気に入られています。3年目は今までの積み重ねを大切に、「利用者さん一人ひとりの生活のペースや自己決定を大切に、よりその人を中心としたケアに向けて」生活支援をしてゆきたいと考えています。職員も半受け持ち制にして責任のある仕事になるように、またチームアプローチの重要性、チームケアの大切さを業務の中で確立できるように実践してゆきたい。昨年は「あなたのほっとした笑顔に出会いたい」をテーマに活動してきました。今年のテーマは「あなたの夢をかなえますプロジェクト」として、利用者さんの心の奥にかかえる問題も丁寧にやさしく家族と一緒に取り組みたいと思っています